3. 品詞

品詞とは、単語を文法的機能によって分けた名称です。文法的機能には、他の語を修飾する機能、述語や主語になる機能、自立する機能、活用する機能などがあります。国文法では、自立するかしないか、活用するかしないかによって、次のように大きく四つに分類されます。

表1　単語の文法機能による分類

品詞	文法機能
用言（動詞・形容詞・形容動詞）	自立して、活用する
体言（名詞・代名詞・数詞）・接続詞	自立して、活用しない
連体詞・副詞・感動詞	
助動詞	自立せず、活用する
助詞・接辞	自立せず、活用しない

用言とは活用のある自立語で、単独で述語となることができます。用言には、動詞・形容詞・形容動詞があります。**体言**とは活用のない自立語で、単独で主語となることができます。体言には、名詞・代名詞・数詞があります。

自立語とは単独で文節を作ることができる語をいいます（文節の切れ目を

「／」で示します)。

(10) 用言

太郎は／速く／走る(動詞)

太郎は／とても／若い(形容詞)

その部屋は／かなり／静かだ(形容動詞)

(11) 体言

ごはん／、食べたい(名詞)

私／、いやだ(代名詞)

七／、それは／ラッキーナンバーだ(数詞)

(12) 接続詞

だから／、言ったじゃないの。

一方、単独で文節を作ることができず、動詞や名詞に付属する語を**付属語**といいます。付属語には、活用のある助動詞と活用のない助詞・接辞があります。

(13) 助動詞

使わせる(使役の助動詞「せる」)

盗まれる(受身の助動詞「れる」)

太郎だ(断定の助動詞「だ」)

(14) 助詞・接辞

私が太郎です(助詞)　お酒(接辞)

品詞の中で、動詞・形容詞・形容動詞・助動詞は活用します。**活用**とは、文の中で形が変化することをいいます。変化した形を**活用形**といいます。活用形には、**未然形・連用形・終止形・連体形・仮定形・命令形**があります。

表2　用言・助動詞の活用

品詞	例	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
動詞	走る	走	ら	り	る	る	れ	れ
形容詞	白い	白	かろ	かっく	い	い	けれ	○
形容動詞	静かだ	静か	だろ	だっで	だ	な	なら	○
助動詞	たい	た	かろ	にかっく	い	い	けれ	○

語幹は活用しない共通の部分です。一方、「ら」「り」「る」「る」「れ」「れ」など、未然形から命令形までの活用する部分を**活用語尾**といいます。形容詞・形容動詞・助動詞には命令形がないので、○で示します。

続いて、それぞれの品詞を解説します。はじめに用言(動詞・形容詞・形容動詞)から述べます。

3.1　動詞

動詞は、動作や状態を表します。ここでは、活用の種類と、自動詞・他動詞によって分類します。

3.1.1　活用の種類による分類

動詞には、次の五つの**活用の種類**があります。

表3　動詞の活用の種類

活用の種類	例	語幹	未然形 ～ない ～(よ)う	連用形 ～ます	終止形 ～。	連体形 ～とき	仮定形 ～ば	命令形 ～！ (後に続く語)
五段活用	歩く	歩	か こ	き	く	く	け	け
上一段活用	見る	(見)	み	み	みる	みる	みれ	みよ みろ
下一段活用	得る	(得)	え	え	える	える	えれ	えよ えろ
カ行変格活用	来る	(来)	こ	き	くる	くる	くれ	こい
サ行変格活用	する	(す)	し	し	する	する	すれ	しろ せよ

上一段・下一段・カ変・サ変の語幹の括弧は、語幹と語尾の区別がないことを示します。**五段活用**は、たとえば「書く」の場合、「か・き・く・け・こ」の五段に活用するという意味です。「書く」は、カ行で五段に活用しますからカ行五段活用といいます。**上一段活用**は、たとえば「見る」の場合、活用語尾が「み」で始まり、「み」はマ行の「ま・み・む・め・も」の真ん中の「む」から上に一段上がったところにあるからつけられた名称です。**下一段活用**は、たとえば「得る」の場合、活用語尾が「え」で始まり、「え」はア行の「あ・い・う・え・お」の真ん中の「う」から下に一段下がったところにあるからです。**カ行変格活用**と**サ行変格活用**は、五段活用とも一段活用とも異なる特殊な活用です。

3.1.2　自動詞・他動詞の分類

動詞は、目的語を取らない**自動詞**と目的語を取る**他動詞**に分けることができます。目的語には、助詞「を」か「に」が付きます。

(15)　自動詞と他動詞

自動詞　走る　歩く　立つ　すわる　行く　来る

他動詞　(手紙を)書く　(要点を)話す　(ご飯を)食べる　(馬に)乗る

自動詞と他動詞でペアになっている語もあります。

(16)　自動詞と他動詞のペア

自動詞　当たる　あく　倒れる　冷える　起きる　ふさがる

他動詞　当てる　あける　倒す　冷やす　起こす　ふさぐ

3.2　形容詞

形容詞は活用のある自立語で、ものごとの状態を表します。現代語では、次のように最後に「い」が付きます。活用は表2で示しました。

(17)　現代語の形容詞の例

赤い　白い　楽しい　悲しい　明るい　暗い　浅い　深い　おもしろい

3.3　形容動詞

形容動詞も活用のある自立語で、ものごとの状態を表します。現代語では、次のように最後に断定の助動詞「だ」が付きます。活用は表2で示しました。

(18)　現代語の形容動詞の例

静かだ　にぎやかだ　きれいだ　元気だ　丁寧だ　親切だ　おおらかだ

時枝誠記(もときき)はこれらを「体言＋だ(指定の助動詞)」と考え、形容動詞という品詞を立てていません(『日本文法口語篇』108–113ページ)。このように、文法家によって語の扱いが異なることがあります。続いて、体言に移りましょう。

3.4　体言(名詞・代名詞・数詞)

体言のうち、**名詞**はものごとの名前を表すことばで、活用のない自立語です。次に名詞の例を挙げましょう。

(19)　名詞の例

①「もの」を表す名詞　花　本　テレビ　いす　机　テーブル　新聞

②空間・時間を表す名詞　上　下　中　外　内　前　後　二時　三分
③ことがらを表す名詞　話　掲示　政治　経済　社会　知識
④動詞の連用形　走り　歩き　語り
⑤形容詞からの派生　速さ　新しさ　古さ
⑥形容動詞からの派生　静かさ　にぎやかさ

代名詞には人称代名詞と指示代名詞があります。

(20)　人称代名詞の例

人称　例
一人称　わたし　わたくし　僕　俺　わし
二人称　あなた　おまえ　君
三人称　彼　彼女

一方、「これ、それ、あれ、どれ」などの「こそあど」ことばを指示代名詞といいます。

数詞は「一」、「二」、「三」、「十」、「百」「千」など、数を表す語です。

3.5　接続詞

接続詞も活用のない自立語です。文と文をつなぐ役割を果たし、次のように順接と逆接に分けられます。

(21)　接続詞

順接の接続詞　そして、それで、だから、さらに
逆接の接続詞　しかし、でも、けれど、けれども、が

順接は、前後の文が順番どおり、あるいは順当な関係でつながること、逆接は、前後の文が対立する(逆の)関係でつながることを表します。

(22)　太郎はうちに帰った。そして、勉強した。　順接　(順番どおり)
(23)　太郎は一生懸命勉強した。だから志望校に合格した。　順接　(順当な関係)
(24)　太郎は勉強した。しかし、志望校に受からなかった。　逆接　(対立関係)
(25)　太郎はごはんをたくさん食べた。けれども太らなかった。　逆接　(対立関係)

(22)では、「うちに帰る」と「勉強する」は時間的に順番どおり起きています。(23)では、「一生懸命勉強し」た順当な結果として「志望校に合格」したという関係になっています。

3.6　連体詞

連体詞とは、体言(名詞)に連なる、つまり名詞を修飾する語で、活用のない自立語です。「大きな」、「小さな」、「この」「あの」「その」「どの」などがあります。橋本文法では、もと「副体詞」といっていましたが、「連体詞」が一般的です。

(26)　大きな家、小さな本、あの机

「大きな」、「小さな」は形容動詞連体形「静かな」「にぎやかな」などと形は同じですが、形容動詞は「静かだ」、「にぎやかだ」といえるのに対し、「大きな」、「小さな」は活用がなく、「*大きだ」「*小さだ」といえません。

3.7　副詞

副詞も活用のない自立語です。副詞には、「ぐっすり」「とても」「かなり」などがあります。副詞は用言(動詞・形容詞・形容動詞)を修飾します。

(27)　ぐっすり眠る。
(28)　とても速い。
(29)　かなり静かだ。

3.8　感動詞

感動詞も活用のない自立語で、感動を表します。「ああ」、「まあ」などがあります。

(30)　ああ、驚いた。

3.9　助動詞

助動詞は活用のある付属語です。主な助動詞を挙げ、その意味を括弧に入れて示します。

(31)　助動詞とその意味

だ・です(断定)　ない・ぬ(打消)　まい(打消推量)　う・よう・らしい(推量)　た(過去)　ます(丁寧)　ようだ(比況)　そうだ(様態)　そうだ(伝聞)　た(過去)　たい(希望)　れる・られる(可能、自発、尊敬、受身)　せる・させる(使役、尊敬)

助動詞は、「動詞を助ける」品詞で、次のように動詞に付きます。

(32)　**書か**ない、**書き**ます、**書い**た、**書く**まい、**書こ**う、

(32)で、下線部の助動詞は、太字の動詞に直接付いています。

他の助動詞に付く助動詞もあります。

(33)　つまらない映画を**見させ**られた。

(34)　日記は、ここにおいておくと人に**見られ**そうだ。

(33)では下線部の過去の「た」は二重線部の受身の「られ」に付き、さらに「られ」は太字の「させ」(使役)に付いています。(34)では、下線部の「そうだ」が太字の「られ」に付いています。断定の助動詞は、名詞に付きます。

(35)　太郎は**学生**だ。太郎は**学生**です。

(31)の中に打消の「ない」がありますが、形容詞にも「ない」があります。次の「ない」はそれぞれどちらでしょうか。

(36)　よくわからない。

(37)　机がない。

二つの「ない」の見分け方は次のとおりです。

(38)　二つの「ない」の見分け方

①「ない」を「ぬ」に置き換えられれば助動詞、置き換えられなければ形容詞

(36)の「よくわから**ない**」→「よくわから**ぬ**」助動詞

(37)の「机が**ない**」→「*机が**ぬ**」形容詞

②「ない」のまえに格助詞「は」「が」が入れば形容詞、入らなければ助動詞

(36)の「よくわからない」→「*よくわから**は**ない」助動詞

(37)の「机が**(は)**ない」→形容詞

次に、(31)の二つの「そうだ」を区別してみましょう。

(39)　雨が**降り**そうだ。　様態

(40)　雨が**降る**そうだ。　伝聞

動詞「降る」の連用形「降り」に付く場合は様態(39)、終止形「降る」に付く場合は伝聞です(40)。形容詞につく場合はどうでしょう。

(41)　この本は**おもしろ**そうだ。　様態

(42)　この本は**おもしろい**そうだ。伝聞

形容詞「おもしろい」の語幹「おもしろ」に付く場合は様態(41)、終止形「おもしろい」に付く場合は伝聞です(42)。ただし、形容詞「ない」に様態の「そうだ」がつく場合は、語幹のあとに「さ」が入ります。

(43)　おもしろくな$\boxed{さ}$そうだ。

形容動詞に付く場合も同様です。

(44)　大通りは**にぎやか**そうだ。　様態

(45)　大通りは**にぎやかだ**そうだ。伝聞

形容動詞「にぎやかだ」の語幹「にぎやか」に付く場合は様態(44)、終止形「にぎやかだ」に付く場合は伝聞です(45)。

3.10　助詞

助詞は活用のない付属語です。現代語の助詞には次の四種類があります。

表4　現代語の助詞の種類

種類	例
格助詞	が、の、を、に、へ、と、より、にて、して
接続助詞	から、ので、が、のに、けれど、けれども、しかし、ば
副助詞	は、も、くらい、さえ、しか、だけ、ばかり、ほど、まで
終助詞	か、な、ね、や、よ、わ、ぜ

格助詞は、下の語への関係を示します。**接続助詞**は、下の語への接続を示します。**副助詞**は、ある意味を付け加えます。**終助詞**は疑問・感動・禁止・詠嘆などを表します。

3.11　接辞

接辞も活用のない付属語で、名詞に付きます。接辞には、名詞の前に付く**接頭辞**と名詞のあとに付く**接尾辞**があります。

(46)　接頭辞と接尾辞

接頭辞　　お弁当　ご挨拶　どん底　かっとばす

接尾辞　　太郎さん　子供たち　寒さ　汗ばむ